

カメラ

あらかると



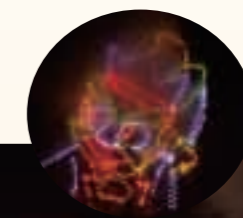
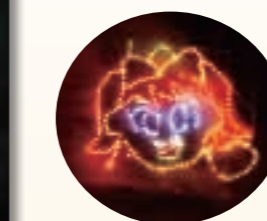
夜空を彩る大花火

(7月31日 成羽川河川敷)

約300年の伝統を誇る「備中名物成羽愛宕大花火大会」(成羽愛宕大花火実行委員会主催)が開かれ、大勢の観客でにぎわいました。

延長400mの大銀滝、「国民文化祭・おかやま2010」の市主催事業の一つ「神楽フェスティバル」にちなんだ備中神楽絵巻など中四国最大級の仕掛け花火12景と、打ち上げ花火2000発が夏の夜空を彩りました。

また、河川敷の特設舞台では備中神楽も奉納されました。



発達障害への理解を深めて

(7月30・31日 文化交流館)

発達障害の理解と支援の在り方を学ぶ「旭川荘療育アカデミー・夏季講座」(学校法人旭川荘主催)が行われました。

社会福祉法人旭川荘名誉理事長で本市名誉市民の江草安彦さんの「障害児(者)の医療福祉」と題した基調講演のほか、さまざまな発達障害の具体的な内容について、第一線で活躍中の講師の皆さんによる講演があり、市内外から参加した約200人の聴講者は発達障害への理解を深めていました。



楽しい体験がいっぱい

(8月7日 総合文化会館・文化交流館)

“すべての子どもたちの未来に夢を”をテーマに「子育てふれあいフェスティバル2010」(同実行委員会主催)が開かれました。

来場者も一緒に歌や手話ダンスを楽しむ「歌う海賊団!」によるファミリーコンサートのほか、いろいろなおもちゃで遊べるひろば、たかきび団子やところてんといった昔ながらのおやつを試食、工作や読み聞かせなど、さまざまな体験コーナーがあり、親子や友だち同士で楽しい時間を過ごしていました。



巨大な絵ぶたがずらり

(8月7日 マンガ絵ぶた公園一帯)

「マンガ絵ぶたまつり」(同実行委員会主催)が行われ、アニメキャラクターなどをかたどった巨大な絵ぶた8基が練り歩くと、その迫力に会場から大きな歓声が上がりました。制作メンバーが絵ぶたを回転させながら、出来栄をアピール。周囲では、“はねと”と呼ばれる踊り手が「ラッセラー」と声を上げて舞い、まつりは最高潮に達しました。

審査の結果、大賞は、「負けるな!鉄人」(インパルス川上と川上幼稚園PTAキッズクラブ)。準大賞には、「3びきのこぶた」(ドリームファクトリー)、「カーズ、やっさんファミリー」(地頭絵ぶた会)が選ばれました。

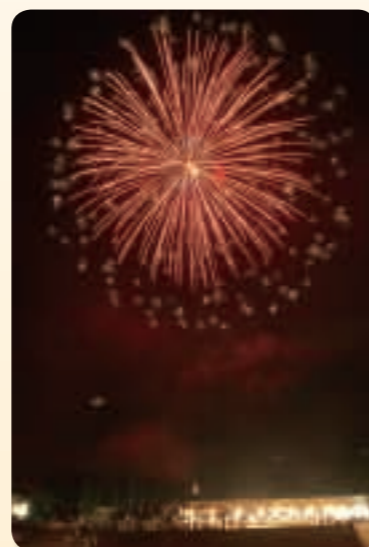


有漢納涼ふるさと祭

(8月7日 有漢総合グラウンド)

有漢納涼ふるさと祭(同実行委員会)が行われました。会場には特設ステージと盆おどりの音頭台が設けられ、浴衣を着た家族連れら多くの人でにぎわいました。

また、祭りのラストには、「ウ」の字が灯された権現山の上空に700発の花火が打ち上げられ、観客の目を魅了しました。



カブトムシに触ったよ

(7月18日 川上町高山市・カブトの里広場)

子どもたちに自然の楽しさや素晴らしさを実感してもらおうと、「カブト祭り」(弥高昆虫育成会主催)が開かれました。地元有志が中心となって開催しているイベントで、今年で8回目。

山林の一角にカブトムシを放した捕獲体験・ふれあいコーナーでは、子どもたちが実際に手に取って歓声を上げていました。カブトムシの即売、ザリガニ釣りやドジョウすくい、ゲームや模擬店もあり、多くの親子連れでにぎわいました。



核なき平和な世界を願って

(8月6日 落合町近似・方谷林公園)

広島に人類史上初めて原爆が投下されてから65回目となる「原爆の日」、近藤市長が市民を代表し、方谷林公園内の平和記念原爆慰霊碑に参拝。投下時刻の午前8時15分黙とうを行い、花束や折り鶴を手向け、犠牲者の冥福と世界恒久平和を祈りました。

この原爆慰霊碑は、昭和47年8月6日に岡山県原爆被爆者会によって建立されたもので、広島・長崎の原爆投下で犠牲となった県下の被爆者故者がまつられています。

